

地域資源を生かす

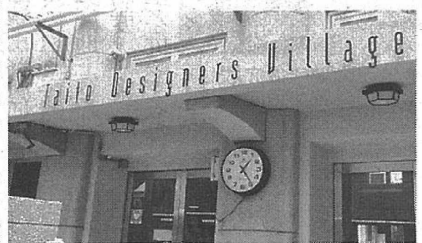
～まちづくりからインバウンドまで

東京・台東 産業衰退から再興

人口が集中し続ける東京にも、地場産業衰退や地域住民の高齢化による児童数減少といった理由から統廃合する小学校がある。03年に廃校となった旧台東区立小島小学校もその一つである。昨今の旺盛なインバウンド



④廃校となった小島小学校 ⑤デザイナーの創業支援施設として活用されている



島小学校は、観受け統廃合の対象となった。光名所に拵がらな「徒蔵」(かちくら)エリアにある。

250社が参加

「徒蔵エリア」は、通称「御徒町」蔵前・浅草橋にわたる2.4四方の地域」で、様々なジャンルの工芸の中小零細製造工業・卸売業が今でも集積する「モノづくり」のまちである。

古くから日本人は、モノに生命が宿ると信じて慈しんできた。日本人は、つくったモノに命を吹き込むのだから、日本製のモノは丁寧で高品質

デザイナー生み出す拠点

残るモノづくりの原風景

ある。中でも台東区は、「日本らしさ」を感じられる多数の観光名所があるエリアであり、外国人観光客は、16年に約830万人(14年比57.8%増)を記録した。

「デザビレ」誕生

「日本らしさ」は、文化的価値のみならず経済価値も顕著に認められるようになり、日本人自身も「日本らしさ」を見つめ直そうとする機運が高まっている。

廃校となった旧台東区立小

「デザビレ」は、他の創業支援施設と同様、当初は目に



⑥高層の共同住宅が目立つ徒蔵エリア ⑦デザビレが媒介となり地域産業を持続

見えるかたちで成果を上げなかつたが、今年5月に開催されたまちとモノづくりに触れるイベント「第10回モノマチ」では参加企業が約250社(第1回は16社)を超え、多数の来場者を集めるようになった。

明治維新以降、西洋的価値観を取り入れた日本は、経済効率に劣るものをどんどん廃絶し高度成長期を経て経済大国となった。「徒蔵エリア」も大通り沿いを中心に、高層共同住宅地域になつているが、「日本人のモノづくり精神」のたすきはデザビレが媒体となり一部でしっかりとつながら、高度経済成長期を支えた「日本らしさ」のあるモノづくりの原風景が残った。(本社事業部、不動産鑑定士・立石正則)